

<配布資料：2018年1月10日 一般社団法人環境金融研究機構>

連絡先：東京都千代田区内幸町 2-2-1、日本プレスセンター内

電話 03-6206-6639 携帯 090-8728-2311 (藤井)

Email <green@rief.jp.org>

第3回 (2017年) サステナブルファイナンス大賞の決定



<サステナブルファイナンス大賞とは>

環境問題を金融的手法で解決する「環境金融」の普及・啓蒙活動を展開する一般社団法人環境金融研究機構 (RIEF) が、2015年から始めた表彰制度で、今回が3回目です。対象は日本の金融市場で環境金融商品・サービス・取り組みを展開する金融機関等です。

10人の審査員が6項目に基づき採点、全員のスコアを元にした定量評価と、審査員会議での定性評価を合わせた総合判断で、「最も優れた金融機関」を選びました。1月24日 (水) 午後3時から日本記者クラブで受賞式 (取材自由)を開きます。受賞式では、各受賞企業がスピーチを行います。

大賞：戸田建設 「再生可能エネルギー事業への投資のためのグリーンボンド発行」

受賞理由：洋上風力発電事業へのグリーンボンドによる資金調達。日本の再エネ事業で期待される浮体式洋上風力発電事業に先行して取り組み、その資金調達としてプロジェクトを対象とした事業会社による初のグリーンボンド発行に踏み切った先駆的な姿勢を評価。

優秀賞：損害保険ジャパン日本興亜 「全国市町村向けの防災・減災費用保険の展開」

受賞理由：自然災害発生時に、市区町村が避難指示命令等を出す際に負担する費用を補償する保険の開発。災害救助法が適用されなくても、保険適用で迅速な対応が可能になる。

優秀賞：三菱UFJモルガンスタンレー証券 「本邦市場でのグリーンボンド等の普及」

受賞理由：2017年だけで国内で7件発行総額2141億円のグリーンボンド等の主幹事を務め、ボンド発行の普及を支援。16年と合わせると2年間で12件の起債を主導。

特別賞：東京都 「自治体初のグリーンボンドを発行。東京の国際金融都市化を宣言」

受賞理由：昨年のトライアル版に続いて、200 億円のグリーンボンドを発行。自治体によるグリーンな資金調達の道を先導した。国際基準の GBP 適合で客観性も担保。

特別賞：サステナリティクス 「グリーンボンド等へのセカンド・オピニオン提供」

受賞理由：16、17 年において日本市場で発行された主要なグリーンボンド等へのセカンド・オピニオンを積極的に提供、市場の育成に貢献した。

地域金融賞：常陽銀行 「公益信託で環境保全のための地域貢献活動を支援」

受賞理由：平成 4 年以来、保険会社等と公益信託による環境保全基金を設立、県内の多様な環境保全活動を支援してきた。

地域金融賞：群馬銀行 「地域の水資源を活用した再生可能エネルギー事業への支援」

受賞理由：群馬県東吾妻町で廃止された発電所を改修、PFI の手法で「箱島湧水発電事業」を資金面から支援。地域活性化に貢献。

地域金融賞：いわき信用組合 「新たな『食の安心・安全』のブランディングを地域ベンチャーと協働」

受賞理由：東日本大震災・原発事故後の復興のため民間資本 100%の「地域商社」立ち上げ、「農業クラウド」開発ベンチャーを通じた生産性向上を図るため、リスクマネーを供給。

地域金融特別賞：宿毛商銀信用組合 「日本初の CLT 工法による銀行店舗の建設」

受賞理由：県材を使って、全国でも珍しい木造の銀行店舗を建設。地場産業と林業の活性化にも貢献。CO2 の固定化にもつながる。

<審査評>

池尾和人・審査委員長（慶應義塾大学経済学部教授）のコメント

「金融システムの主役は、本来は金融機関ではなく、利用者（エンド・ユーザー）のはずである。その意味で、今年の大賞が戸田建設という発行体になったのは、環境金融の広がり象徴するものとして意義深い」

審査員は池尾委員長、魚住隆太・魚住サステナビリティ研究所代表、大庫直樹ルートエフ代表取締役社長、佐藤泉弁護士、末吉竹二郎国連環境計画特別顧問、鳥谷礼子預金保険機構運営委員会委員、中北徹東洋大学教授、藤井良広環境金融研究機構代表理事、堀江隆一 CSR デザイン環境投資顧問代表取締役社長、山本利明大阪電気通信大学教授で構成。

（環境金融研究機構は非営利団体です）